

随意契約結果及び契約の内容

業 務 の 名 称	漂流ゴミの予測シミュレーションの高度化に関する研究委託
業 務 概 要	航行船舶の安全確保や海域環境の保全を図るための漂流ゴミの効率的な回収に必要となる、既存の漂流ゴミの予測シミュレーションの高度化について、領域モデルの統合、計算に必要なデータ取得の自動化の検討を行い、より効率的な漂流ゴミの回収にむけた知見を得るものである。
契 約 担 当 官 等 の 氏 名 並 び に そ の 所 属 す る 部 局 の 名 称 及 び 所 在 地	分任支出負担行為担当官 中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所長 安達 崇 国土交通省中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所 広島市南区宇品海岸3-10-28
契 約 年 月 日	令和7年7月31日
契 約 業 者 名	国立大学法人 山口大学
契 約 業 者 の 住 所	山口市吉田1677-1
契 約 金 額 （ 税 込 み ）	¥3,740,114
予 定 価 格 （ 税 込 み ）	¥3,740,114
随意契約によることとした理由	本業務は、航行船舶の安全確保や海域環境の保全を図るための漂流ゴミの効率的な回収に必要となる、既存の漂流ゴミの予測シミュレーションの高度化について、領域モデルの統合、計算に必要なデータ取得の自動化の検討を行い、より効率的な漂流ゴミの回収にむけた知見を得るものである。 業務の遂行にあたっては、瀬戸内海における漂流物の移動及び滞留場所に関する研究実績を有すること、海域における流動モデルと移動計算モデルを組み合わせた海洋流動シミュレーションモデルに精通していること、また、予測システムの改良において必要となる地形データ（対象領域の地形、水深）、流入河川データ（河川情報）を収集・保有する能力を有しているとともに、これを用いた予測の高度化を行う能力を有することが必要である。 国立大学法人山口大学は、瀬戸内海における漂流物の移動及び滞留場所に関する研究実績があり、海域における流動モデルは海底地形や水位の再現性が優れているFVCOM（Finite-Volume Coastal Ocean Model）を用い、移動計算モデルは運動学的なモデルを採用し、それらを組み合わせた海洋流動シミュレーションモデルに精通している。また、予測システムの改良において必要となる地形データ（対象領域の地形、水深）、流入河川データ（河川情報）を収集・保有する能力を有している。以上のことから、本業務を遂行するに必要な十分な能力を有している。 本業務を遂行するに必要な能力を有する者は、国立大学法人山口大学以外にも存在する可能性があることから、令和7年6月23日から令和7年7月15日までの期間において、本業務の受託希望者の公募を行ったが、参加意思確認書の提出者がいなかった。 以上により、会計法第29条の3第4項、予算令第102条の4第3項に基づき、同大学と随意契約を行うものである。
業 務 場 所	—
業 種 区 分	建設コンサルタント等
履 行 期 間 （ 自 ）	令和7年7月31日
履 行 期 間 （ 至 ）	令和8年3月16日
備 考	